

平成 28 年度 第 2 回 教育課程編成委員会 会議議事録

事業名	職業実践専門課程 教育課程編成委員会（第 2 回）
学校名	新潟農業・バイオ専門学校

会議名	平成 28 年度 第 2 回 教育課程編成委員会
開催日時	平成 28 年 9 月 10 日（土） 15:00 ～ 18:00（3h）
場所	新潟農業・バイオ専門学校 305 教室
出席者	<p>①教育課程編成委員（計 9 名）敬称略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤 富一、齊藤 博、大井田 哲、江川 和徳、箕田 出</li> <li>後藤 竜佑、佐藤 正志、高倉 広利、石山 和史</li> </ul> <p>②新潟農業・バイオ専門学校教職員（計 7 名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校長 新美 芳二／副校長 阿部 貴美</li> <li>／教務部長 秋山 正之 / 講師 斎藤 順、岡野 康弘、</li> <li>峯岸 希一、北澤 道子（参加者合計 16 名）</li> </ul>
議題等	<p>①開催目的：当校職業実践専門課程 5 学科：農業経営科（2 年制）、農業経営科（4 年制）、バイオテクノロジー科（2 年制）、バイオテクノロジー科（4 年制）、園芸デザイン科 における平成 28 年度前期の実習授業の実施状況、ならびに教育実績報告。教育課程編成委員会委員からの意見集約、前回会議にて提案された内容についての当校実習授業内容への反映された結果報告</p> <p>②議題内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度前期の実習授業の実施報告・後期の実習授業実施計画の検討</li> <li>・前回（平成 28 年度第 1 回委員会（平成 28 年 3 月 12 日実施））にて提出された意見確認とその後の学校対応報告</li> <li>・専攻分野で必要とされる人材像について専門家の見地から検証・情報交換</li> </ul> <p>③議事進行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当校の平成 28 年度前期の教育実績、ならびに主な就職活動状況の報告</li> <li>・担当者による自己紹介。委員の自己紹介</li> <li>・各学科における学科教育内容、実習授業運営の現状、参加学生状況の報告</li> <li>・前回の委員会にて提案された意見の反映状況や成果を担当者から報告</li> <li>・平成 28 年度後期の授業計画、実習実施計画の提示</li> <li>・平成 29 年度以降の実習運営に関する意見交換</li> <li>・その他 自由討論</li> </ul> <p>なお、学科ごとの担当委員以外の委員もオブザーバーとして参加。担当委員以外の委員からも多面的な見地から提案、意見が積極的に出された。</p>

① 農業経営科（2年制）15:30 - 16:00

（担当委員 佐藤 富一、後藤 竜佑、大井田 哲）

・委員意見：前年度からの懸案であった、農業機械に乗る機会の拡大は周辺農家の協力を頂き実現できた。現在、トラクター等使用機械の大規模化が進み、いかに機械の構造を理解するかが重要となってくる。班分けを工夫するなど農業機械に乗る機会を多く設けたいとの提案を受けた。

当校回答：意見を受けて前期は班分けを工夫することで改善を図った。年度ごとに人数が上下するため、年度ごとの対応が必要である。また、ヤンマーなどの企業で行われている実習の活用実績の報告もなされた。

・委員意見：「いたやま夢まつり」の際、学生の主体的な参加による屋台出店がなされたことは良かった。「地域活動」の授業導入によって学生への意義づけも明確になった。

当校回答：5月に行われた「夢まつり」では園芸デザイン科による出店がなされた。学生にとっても有意義な経験が得られた。授業と連携した仕組みづくりがうまくなされている。また、当日学生が最後の反省会までいることができ、イベント運営の一連の流れを知ることができたことは、地域に溶け込むという点で学生にとっても良い経験となった。

・委員意見：地域活動の内容の一つにアグリパークでのイベント活動運営についても導入してもらいたい。

当校回答：カリキュラムの関係上、事前の準備期間が必要である。年間スケジュールを確認したうえで、積極的に参加していきたい。本年度は既定の流れで進んでいるため、次年度以降、年間スケジュールが決まった時点で参加の可否を検討していく。

・委員意見：実習の際、安全、熱中症対策の励行が重要。特に夏期間の熱中症の発症は実習先でも心配である。

当校回答：インターンシップ授業内での事故については保険に加入している。熱中症は例年何名かが体調崩すため、啓蒙を図っていく。本年度は重大な事故は起きていない。学生の安全確保は引き続き、担当者間で認識の共有化を図る。

② 農業経営科（4年制）16:00 - 16:15

（担当委員 佐藤 富一、後藤 竜佑、大井田 哲）

・委員意見：バイオテクノロジー科との土壌調査に関する共同研究授業の実現に期待したい。また、土壌分析方法や植物生理学などより専門的な分野への研究も進めることも重要であると考えます。

当校回答：前期においてバイオテクノロジー科との共同研究授業を実施した。実習圃場の土壌検査の実施、硬盤層破壊の実際とその効果について研究したが、期待された結果がでてこなかった。とはいえ、実績として共同研究授業が実現できたことは評価に値する。また、レポート作成、プレゼンの実施を通じて一定の学習効果を出すことができた。今後、自然栽培の圃場での土壌分析から、さらに範囲を拡大させていきたい。また、より高度な専門分野の教育について

は、専門学校教育水準を向上させるために重要な指摘である。学生水準を鑑みながら、今後実現に向けて計画を進める。課題として、専門的な施設が不足している点、担当職員が不足している点、学生の学力水準と授業内容の乖離が生じる恐れがある点が挙げられる。

・委員意見：新潟市は「食育」「機能性食品の表示」「農業特区」など食と農に積極的に関わっているが、今後も行政との連携も積極的にできると考える。

当校回答：これまで、アグリパーク、いくとびあ食・花、また新潟県立植物園など施設を利用した実習を実施していた。今後も継続的に連携をしていく。また、新潟市が進めている「機能性食品表示」については概要の理解を授業の中で触れる程度で、積極的に実現を進めていくには至っていないのが現状。担当者間で進めていきたい。

### ③ バイオテクノロジー科（2年制）16:15 - 17:00

（担当委員 江川 和徳、高倉 広利）

・委員意見：前回の指摘と同様に、検定対策は学生のモチベーションをいかに上げるかが課題である。本年度の学生の気質はどうか。その変化に対応した指導方法はどのようにしているか。

当校回答：前回と指摘のとおり、学生の学習意欲の低下は目立ってきている。現状は何事にもあっさりしている学生が増えている。その一方で、積極的に取り組み、自ら向上させていく学生もいる。結果的に、学生のうちで積極的と消極的との2極分化が進んでいる。日々の勉強の習慣がついていない学生も増えている。1年生の前期では、勉強の習慣をつけることから授業を展開している。また、資格取得対策として、講師自ら工夫をした勉強方法を提案し、効果的な授業の実現を図っている。

・委員意見：研修旅行の充実を図っているが、どのような効果が期待できるか。

当校回答：2年制と4年制との合同にて1年次の6月に国内研修旅行を実施。目標は生産・加工現場を見ることで自分の職業観をイメージさせることである。今回は北海道のワイナリー、ウイスキー工場などを見学した。現場の雰囲気、職員の動きをみることで職業観を具体的にすることができた。

・ヒメサユリをバイオテクノロジー科で植物培養の技術を使い、増殖は可能か。

当校回答：現在、農業経営科、バイオテクノロジー科との連携を実現している。今後、学生の実習教材として進める。地元との連携が大切あり、担当者の窓口の一本化が必要（現時点では斎藤講師）。

### ④ バイオテクノロジー科（4年制）17:00 - 17:15

（担当委員 江川 和徳、高倉 広利）

・委員意見：食品関連の展示会などへの参加は学生にとって勉強になる。本年も展示会への出店計画はあるのか。

当校回答：本年も11月に新潟にて行われるフードメッセへのブース参加を計画している。その際、学生見学の機会も設けている。積極的に対外イベントへの

参加を進めていきたい。

・委員意見：卒業研究の内容の充実が必要であると考え。プレゼンテーション能力を高める意味でも発表する場の設置が必要ではないか。

当校回答：本年度より発表の機会の設置を進めている。農業での自然栽培の研究、農業とバイオのとの連携による硬盤層の研究テーマを決めて準備を進める。

#### ⑤ 園芸デザイン科 17:15 - 17:45

(担当委員 齊藤 博、石山 和史、大井田 哲)

・委員意見：今年度から導入される「地域活動」の授業運営に期待したい。販売の経験をすることで学生にとって大きな教育的効果が期待できる。

当校回答：地域活動への積極的な参加は園芸デザイン科の大きな強みである。5月に行われた「いたやま夢まつり」への初めての参加は効果的であった。今後も引き続き充実を図っていく。このような地域活動への参加により独自性を持った教育内容の実現に努めていく。

・委員意見：これから園芸分野にて必要とされる人材は「感性」を持っている人。いいものをいろいろと見せる機会が必要であると考え。見せる体験を多く持たせてもらいたい。

当校回答：今回、国内研修旅行で「盆栽美術館」を訪問した。学生だけではなかなかいくことができない場所への見学の機会を設けることで学生の知見を広げていきたい。

・委員意見：「全国庭園デザインコンテスト」やより高度な資格・検定に挑戦する姿勢は非常によいと思う。

当校回答：挑戦し続ける学科として教育システムの構築、授業内容の充実をさらに図っていく。今回は技能五輪へ学生 2 名が選手として参加することができた。高度な検定、コンペへの積極的な参加をすることで、学生の技術とモチベーションの向上を図っていく。そのため、関連企業、団体の協力が不可欠である。今回、7月行われた学園祭「NSG夏フェス」では園芸デザイン科でステージ発表がなされた。この発表、一連の準備・練習は学生にとって大きな経験となった。

#### ⑥全体について委員からの意見 17:45 - 18:00

・アグリパーク（実習先）より：学生の挨拶がよくなった。また、事前に学生のプロフィールを知ることができたため、指導がしやすくなった。

・夏休み期間をはさむことで植物の世話が中断される。継続的に世話ができるようスケジュール調整が必要であると考え。

当校回答：次年度の学事歴作成の際、調整、検討を加えていく。

・A B i o 学内での連携による第 6 次産業の事業化を進めてはどうか。

当校回答：当校発の法人が設立されるなど、今後新たな動きを加えていく。

新美校長の挨拶を受けて、閉会した。

以 上